

浦田一郎名誉教授 著作目録

I 著書

- 1987年 『シエースの憲法思想』（勁草書房）
 1995年 『現代の平和主義と立憲主義』（日本評論社）
 2005年 『立憲主義と市民』（信山社）

II 共編著

- 1977年 『憲法入門(2)』（「国会」）（有斐閣）（1990年新版）
 1994年 『「憲法改正」批判』（「平和主義の理解のしかた——対抗と展望」）（労働旬報社）
 1998年 『日本国憲法史年表』（1995, 96年）（勁草書房）
 1999年 『基本判例1 憲法』（憲法総論、人権総論、集団行動の自由、人身の自由）（法学書院）（2004年2版、2009年3版）
 2003年 浅野一郎・杉原泰雄監修『憲法答弁集』（自衛権）（信山社）
 2006年 『いまなぜ憲法改正国民投票法なのか』（「憲法改正と憲法制定」）（蒼天社出版）
 2008年 『新版・体系憲法事典』（現代憲法概説、平和的生存権、被告人の権利）（青林書院）
 『議会の役割と憲法原理』（「政府の憲法解釈とその変更——国会・内閣・内閣法制局」）（信山社）
 2009年 『平和と憲法の現在——軍事によらない平和の探求』（「近代戦争遂行能力論の意味転換——自衛力論前史」）（西田書店）
 2010年 山内敏弘先生古稀記念論文集『立憲平和主義と憲法理論』（「近代戦争遂行能力論の終焉（1954年3月-12月）」）（法律文化社）

III 論文

- 1972年 「1789年におけるシェイエスの主権理論」一橋研究23号

(174) 一橋法学 第9巻 第3号 2010年11月

- 1973年 「共和暦3年のシェイエス」一橋研究26号
- 1974年 「私人間の人権 思想・信条の自由——三菱樹脂最高裁判決をめぐって」
一橋研究27号
- 1975年 「革命初期シェイエスの憲法思想」一橋論叢73巻2号
- 1976年 「自白」奥平康弘・杉原泰雄編『憲法学』1巻（人権の基本問題Ⅰ）（有斐閣）
- 1977年 「フランス革命とシェイエス——共和暦8年憲法草案を中心として」山形大学紀要7巻2号
「国民主権論」『憲法30年の理論と展望』（法律時報臨時増刊）
「独立行政委員会」奥平康弘・杉原泰雄編『憲法学』5巻（統治機構の基本問題Ⅱ）（有斐閣）
「シェイエスの人権論——労働による所有論を中心に」一橋論叢78巻6号
- 1979年 「フランスの緊急権」ジュリスト701号
- 1981年 「憲法的公共性とフランス警察法における『公序』観念について(1)」山形大学紀要11巻2号
- 1982年 「憲法的公共性とフランス警察法における『公序』観念について(2)」山形大学紀要12巻2号
- 1983年 「憲法的公共性とフランス警察法における『公序』観念について(3)」山形大学紀要13巻2号
- 1984年 「日本における憲法科学の方法論」杉原泰雄編『講座・憲法学の基礎』3巻（憲法学の方法）（勁草書房）
- 1987年 「自衛権論が意味するもの」法律時報59巻6号
- 1988年 「刑事手続に関する憲法規定における人権主体について」一橋論叢99巻4号
「被疑者になる前と、被告人でなくなった後」法律時報60巻7号
「自然権と憲法制定権力——シェエスの憲法思想のまとめに代えて——」法学研究18号
- 1989年 「『公的自由』の観念とフランス的人権保障のありかた」一橋大学社会科学古典資料センター年報9号

- 1990年 「『予算と法律』と『条約と法律』」法学教室117号
「緊急権の根拠と執行権の観念——フランス第三共和制下の学説を中心に——」深瀬忠一教授退官記念『平和と国際協調の憲法学』（勁草書房）
- 1991年 「外交と国会——『外交国会中心主義』について」法律時報63巻5号
- 1992年 「利益政治・政権交替と国民代表——小選挙区比例代表並立制の問題点」法律時報64巻2号
「人間の主体性と人権による拘束——最近の人権論の動向と問題点」研究年報（一橋大学体育共同研究室）
「経済成長主義か平和主義か」法の科学20号
「90年代日本における『政治改革』論と議会制のあり方」韓日法学研究11号
- 1993年 「戦争責任と経済成長」ジュリスト1016号
「シエースの国民主権論」『フランス革命とは何か』（中央大学社会科学研究所研究報告12号）
「議会による立憲主義の展開——《droits de l'homme》から《libertés publiques》へ」一橋論叢110巻1号
「立憲主義と軍事力の有効性」法と民主主義280号
- 1994年 「憲法9条と平和主義」法学セミナー470号
「議会による立憲主義の確立——《libertés publiques》観念の構造と問題点——」杉原泰雄教授退官記念論文集『主権と自由の現代的課題』（勁草書房）
「平和的生存権」樋口陽一編『講座・憲法学』2巻（主権と国際社会）（日本評論社）
「自衛権論が意味するもの」・「被疑者になる前と、被告人でなくなった後」・「外交と国会」杉原泰雄・樋口陽一編『論争憲法学』（日本評論社）（再録）
- 1996年 「政治による立憲主義」法律時報68巻1号
- 1997年 「国際社会のなかの平和主義」公法研究59号
- 1998年 「安保条約はなぜできたのか」法学セミナー518号

「法律による人権保障と立憲主義」杉原泰雄・清水陸編『憲法の歴史と比較』（日本評論社）

「後方支援の論理——新ガイドラインと周辺事態法案」法律時報70巻7号

「日米安保条約はなぜできたのか、なぜ続いたのか?」・「新ガイドラインと国会による統制」森英樹・渡辺治・水島朝穂編『グローバル安保体制が動きだす』（日本評論社）

1999年 「武力の行使・武器の使用と集団的自衛権」山内敏弘編『日米新ガイドラインと周辺事態法』（法律文化社）

2000年 「政府の集団的自衛権論と学生の護憲・改憲論」法律時報72巻5号
「政府の集団的自衛権論——その射程と限界——」杉原泰雄先生古稀記念論文集刊行会編『二一世紀の立憲主義——現代憲法の歴史と課題——』（勁草書房）

「民主主義法学と人権論の構想」法の科学29号

2001年 「政府の集団的安全保障論——武力行使との一体化論を中心に——」一橋大学法学部創立五十周年記念論文集『変動期における法と国際関係』（有斐閣）

2002年 「有事立法と憲法政治的制約」法律時報74巻7号
「政府の平和主義論——個別的自衛権論を中心として——」憲法理論研究会編『法の支配の現代的課題』（憲法理論叢書10）（敬文堂）

「武力攻撃事態——有事法制批判の仕方と非武装平和主義」全国憲法研究会編『憲法と有事法制』（法律時報増刊）

2003年 「政府の個別的自衛権論覚書」一橋法学2巻2号

2004年 「戦後憲法政治における9条の意義」ジュリスト1260号

2005年 「平和主義の展望——専守防衛論とのかかわりから」全国憲法研究会編『憲法改正問題』（法律時報増刊）

「一橋大学の法学教育と法学研究」法律時報77巻6号

「報告書における集団的自衛権問題」法律時報77巻10号

「憲法9条という現実」季刊軍縮地球市民3号

- 「専守防衛論の歴史的展開——安保体制とのかかわりにおいて」小田中聰樹先生古稀記念論文集『民主主義法学・刑事法学の展望』下巻（刑法・民主主義と法）（日本評論社）
- 2006年「憲法改正手続による『新憲法制定』の意味——国民投票法案によせて」法律時報78巻3号
- 「国連憲章と日本国憲法——武力行使への関わりを中心として」法学館憲法研究所編『日本国憲法の多角的検証』（日本評論社）
- 「自衛力論をめぐる憲法解釈と憲法改正」法の科学37号
- 2007年「対内的実力に関する近代戦争遂行能力論——自衛力論前史1——」法律論叢79巻4・5合併号（吉田善明教授古稀記念論文集）
- 2008年「改憲の発議か投票の発議か——国会の発議と国民投票の関係」民主主義科学者協会法律部会編『改憲・改革と法——自由・平等・民主主義が支える国家・社会をめざして』（法律時報増刊）
- 「現代日本社会と憲法——半立憲主義としての日本の憲法——」公法研究70号
- 2009年「MSA論議前の『対内的実力に関する近代戦争遂行能力論』——自衛力論前史——」戒能通厚・原田純孝・広渡清吾編渡辺洋三先生追悼論集『日本社会と法律学——歴史、現状、展望』（日本評論社）
- 「政府の平和主義解釈とその変更——集团的自衛権論を中心に」日本の科学者44巻5号
- 「自衛隊の海賊対処における武器使用と武力行使」法と民主主義438号
- 2010年「憲法としての安保体制——60年安保50年」法律時報82巻1号
- 「『日米同盟』論の矛盾——政府見解における安保体制論」民主主義科学者協会法律部会編『安保改定50年——軍事同盟のない世界へ』（法律時報増刊）

IV その他

1 解説

- 1975年「天皇」、「国会」、「参政権」樋口陽一・佐藤幸治編『憲法の基礎』（青

林書院新社)

- 1976年 「日本国憲法」(佐藤隆夫・柿崎栄治編『現代法学の課題・全訂版』(東出版))
- 1977年 「(憲法)44-49条」有倉遼吉編『判例コンメンタール・憲法II』(三省堂)
(1994年浦田賢治・大須賀明編『新・判例コンメンタール・日本国憲法2』)
- 1981年 「近代法と現代法」、「公権力と法」佐藤隆夫・柿崎栄治編『現代法学大要』(勁草書房)
- 1982年 「日本国憲法のしくみ」杉原泰雄編『市民のための憲法読本』(築摩書房)
- 1984年 「国民主権」芦部信喜・池田政章・杉原泰雄編『演習憲法』(青林書院)
- 1985年 「刑事手続と人権」奥平康弘・杉原泰雄編『憲法を学ぶ(新版)』(有斐閣)
(1985年新版、1996年3版、2001年4版)
- 1989年 「人権宣言の背景」清水陸編『憲法I』(別冊法学セミナー)
- 1991年 「議会制民主主義は生かされているか」浦田賢治・新倉修・吉井蒼生夫
『いま日本の法は——君たちはどう学ぶか』(日本評論社)(1995年2版、
2001年3版)
- 1992年 「平和をつくる生き方」(特集・資料で読む憲法政治)法学セミナー 37
巻7号
- 1994年 「条約の承認」『司法試験シリーズ・憲法[総論・統治]』(別冊法学セ
ミナー 128号)
- 1997年 「私のすすめるこの一冊・ルソー『社会契約論』」『法学入門・1997』(別
冊法学セミナー)
「上論」、「前文」、「憲法改正」小林孝輔・芹沢斉編『基本法コンメンター
ル憲法[第4版]』(別冊法学セミナー)(日本評論社)(2006年5版)
- 1999年 「文民統制」高橋和之・大石眞編『憲法の争点[第3版]』(ジュリスト
増刊)(2008年大石眞・石川健治編)

2 小論

- 1983年 「選挙権論をめぐって」法学セミナー 344号
- 1991年 「間違いを直すこと」刊行委員会編『ちょっとマッタ、ニッポン』(労

働旬報社)

- 1993年 「軍事力の有効性について」 青年法律家269号
- 1999年 「国会と憲法論議」 受験新報1999年1月号
 「『周辺』とは何か——新ガイドライン関連法案の問題点と修正論議」 法と民主主義338号
 「いま、なぜ周辺事態法案なのか」 法学セミナー 534号
 「試験の難しさと日本社会」 受験新報49巻1号
- 2001年 「『この地球のかたち』と『法学が果たすべき役割』」 民主主義科学者協会法律部会編『だれのための「司法改革」か——『司法制度改革審議会中間報告』の批判的検討』（法の科学特別増刊）
 「改憲論議の前提としての憲法とは何か」 法と民主主義358号
- 2002年 「政府の『平和主義』論に、どう向かうか」 法と民主主義365号
 「コスタリカ旅行の感想」 国立学報10号
- 2003年 「Low School？」 国立学報11号
 「ゼミ生のその後」 受験新報49巻9号
- 2004年 「研究会がなければ、研究できる？」 憲法理論研究会編『現代社会と自治』（憲法理論叢書12）（敬文堂）
- 2006年 「『戦争の放棄』から『安全保障』へ——自民党新憲法草案の解釈」 日本の科学者41巻2号
- 2007年 「外交に関する市民と議会の役割」 日本の科学者42巻11号
- 2009年 「政府の憲法解釈とその変更」 如水會々報950号
- 2010年 「『日米同盟論』の矛盾」 法と民主主義446号

3 判例評釈・解説

- 1980年 「自衛力と戦力」 芦部信喜編『憲法判例百選Ⅱ』（ジュリスト別冊）（1988年2版）
- 1982年 『生存権』 憲法判例研究会編『憲法判例の研究』（敬文堂）
- 1984年 「税務調査と供述拒否権」（最高裁昭和59年3月27日第3小法廷判決） 法学教室48号

- 1985年 「条例制定権の範囲と法理（徳島市公安条例事件）」（最高裁昭和50年9月10日大法廷判決）樋口陽一編『憲法の基本判例』（別冊法学教室）（1996年樋口陽一・野中俊彦編2版）
- 1994年 「憲法第九条と国の私法的行為——百里基地訴訟」憲法判例百選〔第三版〕（別冊ジュリスト）（2000年4版、2007年5版）
- 1999年 「自己決定権と輸血拒否」・「裁判官の政治活動と分限裁判」『最新判例〔必須6科目〕ハンドブック'99』（受験新報1999年12月号別冊）
- 2000年 「人格権と輸血拒否」・「司法書士法による業務制限と職業選択の自由」・「小選挙区比例代表並立制の合憲性」『最新判例〔全6科目〕ハンドブック'00』（受験新報2000年12月号別冊付録）

4 書評

- 1990年 「横田耕一『憲法と天皇制』」学生新聞1320号
- 1991年 「室井力ほか編『現代国家の公共性』」法律時報63巻11号
- 1992年 「浅井基文『「国際貢献」と日本』」赤旗1992年5月25日
- 1993年 「読売新聞社調査研究部編『憲法を考える』」法学セミナー38巻9号
- 1994年 「奥平康弘『憲法Ⅲ——憲法が保障する権利』」憲法理論研究会編『人権理論の新展開』（憲法理論叢書2）（敬文堂）
- 1998年 「深瀬忠一・杉原泰雄・樋口陽一・浦田賢治編『恒久世界平和のために——日本国憲法からの提言』」法律時報70巻11号
- 1999年 「金哲洙『韓国憲法の50年』」法学教室223号
- 2003年 「森英樹編『市民的公共圏形成の可能性——比較憲法的研究をふまえて』」法律時報75巻11号
- 2007年 「川村俊夫『ちょっと待った集团的自衛権って?』」日本の科学者42巻11号
- 2008年 「麻生多聞『平和主義の倫理性〔憲法9条解釈における倫理的契機の復権〕』」憲法理論研究会編『憲法変動と改憲論の諸相』（憲法理論叢書16）（敬文堂）
- 2009年 「右崎正博ほか『事例で学ぶ憲法』」受験新報60巻1号

5 座談会、講演記録、資料ほか

- 1986年 「学界展望・憲法」公法研究48号
- 1992年 「研究のスタンス——現状を前提でなく対象化しとらえ直す」学生新聞1405号
- 1993年 「憲法はその思想を知って、生かすもの」学生新聞1429号
- 1994年 「座談会・憲法の近未来をどう考える!? Part 1」法学セミナー474号
「座談会・憲法の近未来をどう考える!? Part 2、政治改革の争点を討論する（小選挙区比例代表並立制でなにがかわったのか）」法学セミナー478号
「自衛隊違憲論から出発を」・「座談会・平和主義の現実的展開はありうるのか」・「座談会・政治改革で何が実現し、何が葬られたのか」渡辺治ほか『憲法の近未来をどうする!?』（日本評論社）（再録）
- 1995年 「楽で気持ちの良いこと——ヨーガとスポーツ」一橋スポーツ26号
「シンポジウム助言者の発言」日本弁護士連合会編『検証・日本の警察』（日本評論社）
- 1996年 「自転車は美しい」一橋スポーツ27号
「日韓憲法シンポジウム『マスメディア・国家・市民——表現の自由の現代的課題』」法律時報68巻2号
「アルコールと学生生活」一橋大学『大学生のアルコール問題』
- 1997年 「基本的人権とは」（第5巻）、「精神の自由とは」（第8巻）、「表現の自由とは」（第9巻）、「経済活動の自由とは」（第10巻）、「身体の自由とは」（第11巻）、「人間らしい生活とは」（第12巻）杉原泰雄監修『映像で語るわたしたちの日本国憲法』（同朋舎）
「座談会・新ガイドラインの本質とその背景」法と民主主義323号
- 1998年 「平和主義の可能性」憲法問題9号
「シンポジウム・九条裁判の過去・現在・未来」「PKO法」違憲訴訟の会編『カンボジアPKO違憲訴訟』（緑風出版）
- 1999年 「座談会・グローバル安保体制と憲法の平和主義」法律時報71巻1号
「憲法と国会論議」山形大学法政論叢15号

(182) 一橋法学 第9巻 第3号 2010年11月

- 2000年 「座談会（パート1）——私は“現在”をこうとらえる」・「座談会（パート2）——私はこう向き合う」法学セミナー 542号
「シンポジウム・現代における仏教と寺院の社会的役割」ネオ・ブディスト2号
- 2001年 「法学部主催講演会の報告」一橋大学ニュース342号
「政府の集団的自衛権論——従来の見解と小泉政権下の議論」市民と憲法研究者をむすぶ憲法問題Web（<http://www.jca.apc.org/kenpoweb>）
「『集団的自衛権』その解釈と変遷」毎日新聞2001年10月17日夕刊
- 2002年 「九条・有事法制関連政府見解の展開」全国憲法研究会編『憲法と有事法制』（法律時報増刊）（共著）
- 2003年 「対談（山元一氏と）・平和主義と立憲主義」（憲法学説に聞く・最終回）
法学セミナー 585号
「世界各国から、叡知をもとめる」HQ2003年冬号
- 2004年 「対談（山元一氏と）・平和主義と立憲主義」井上典之・小山剛・山元一編『憲法学説に聞く』（日本評論社）（再録）
- 2005年 「リカンベント」HQ1巻7号
- 2008年 「文献紹介『新版・体系憲法事典』」法と民主主義431号
- 2009年 「軍事頼らぬ協力の道探れ」朝日新聞2009年3月8日
Anti-piracy mission sets a dangerous precedent, The Asahi Shimbun,
April 2, 2009